

聖女新聞

発行：00/00/00
No.

前代未聞!! 女子生徒一斉蜂起の大暴動?! 2年生女子生徒全員 反省室収監!!

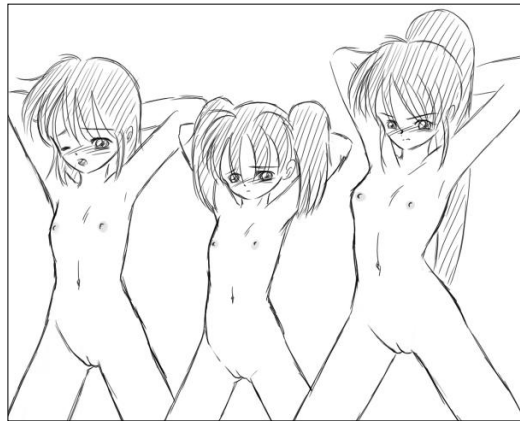
前代未聞の不祥事発生!!

二年生女子生徒が男子に教師に一斉反抗 異例のクラス女子生徒五人全員反省室入り決定!

聖女学園史上に残る事件が発生した。二年生女子生徒全員が、クラスの男子生徒および教師に対して一斉に反抗し、男子生徒への暴力、そして学園内の設備を破壊するなどの暴動が発生した。教師の女子生徒による単独的な反抗行為や抵抗などは少なからず日常的に見られていたが、これは大規模な反抗はかつてほとんど見られなかった。学園側はこの女子生徒たちの暴動を重く受け止め、二年生女子生徒五人全員を反省室に収監するという厳重な処置に踏み切った。一年生全員の女子生徒を同時に反省室に収容するのは学園創立以来初めてのことであり、極めて異例な処置である。

昨日の午後、その事件は発生した。昼休み、男子生徒がふざけて二年生女子生徒、瑞穂のスカートをめくったところ、瑞穂が非難を付けて逃げながらその男子生徒を押し返し、男子生徒を机にぶつけた。さらに、それを見かねた同クラスの希がスカートめくった男子生徒に対して反抗的な態度で口調で文句を言い放ち、それに呼応する形でクラスの女子生徒全員が男子生徒に対する批判を始めた。たまたま教室の前を通りかかった玲子教師が教室内の騒ぎに気がつき入ったところ、同クラスの由紀と縁が、男子生徒への批判を玲子教師に告げた。その頃は、希と真由美を中心に男子生徒たちとの争いが過熱しており、双方ともに除暴排外気風となっていた。一方、由紀と縁に詰め寄られていた玲子教師は、男子生徒のスカートめくりは学校で認められた正当な行為であることを説明したが、二人は納得せず、玲子教師の制止を振り切って反感を示し、学園を糾弾するような発言まで始めた。

玲子教師は、クラスの女子生徒全員が教室の後ろに整列させ、なぜこうなったのかを問いただした。学園生活も長い二年生の女子生徒全員が、処罰も顧みずここまで反抗的な態度をとることは珍しいし、女子生徒たちの態度を重く受け止めた。そもそも激高した理由すらあやふやで、きっかけとなった瑞穂のスカートめくりのことも覚えていないという有様だった。原因の解明を諦めた玲子教師は、女子生徒たちをその場で沙汰を待つよう言い渡し、一度職員室へ戻った。



写真：追加処罰で整列させられ全裸開脚公開の罰を受ける女子生徒

これまでに例がないほど重大な不祥事であること、またこの事態を学園側が非常に重く受け止めており、学園側が再教育が不可欠であると判断したこと、女子生徒たちには厳重な処罰と一週間の反省室入りを命じた。これほどの暴動を起こしなかつた原因としていない女子生徒たちは何となく弁明することもできず、全般的に自分たちの非を認めざるを得なかった。クラスの女子生徒全員が一度に反省室に収監されることは前代未聞の処置である。また、学園の風紀を著しく乱したことで、男子への傷害、校内の器物破壊に対する追加処罰として、玲子教師はその場で女子生徒全員の制服を没収し、全裸で両手を頭の後ろで組み、脚を上げて立てて反省するよう命じた。こうして昼休みが終了するまでの残り約十分の間、女子生徒は教室の後ろで全裸開脚公開の罰を受けた。その間、玲子教師は女子生徒たちの胸の張り方や股の開き方を細かく指導し続けた。特に股の開き方には念入りに指導し、女子生徒

徒の股間の割れ目に教鞭を潜り込ませて大陰唇を開きクリトリスを剥き出しさせながら、しっかりとした反響姿勢をとらせ、男子生徒への罰の意を示すよう丹念に指導していった。身体を罰せられて立つ女子生徒の周りは、男子生徒も取り囲み、惜し気もなく覗かれる股間と玲子教師による大きく開き割れた性器を満遍なく鑑賞していた。女子生徒たちは顔を赤らめ恥ずかしかつていった。



写真：授業中の反省者

多人数用特別反省室初披露

従来の反省室は、主に反省者一人用だったため、二三人程度までが定員と向室収容とすることで対応できた。今回のように五人を同時に収容するほどの容量はなく、以前から問題視されていた。そこで最近、職員や男子生徒の意見や要望を募って新たな反省室の設立が企画され、五十人以上を収容できる、一度に全校の女子生徒全員すらも収容できる特別反省室が建設された。この特別反省室は先週完成し、早期の使用が期待されていたが、今回の件で予想以上に早くこの機会に恵まれたと言える。特別反省室では、省スペースで多人数を収容できるように柔軟なレイアウト変更が可能なとされ、かつ今後は連帯責任といったことで室内に敷設が行われた。初日の奉仕内容は奉仕活動の清掃活動とされ、床用モップ、ハンディモップ、ほうき、たきカセット、ハンドヘルドブラシの共用品を掃除した。それらの掃除道具の柄は、両手を使えない反省者たちのために、ディンプル型とし、柄を握りやすくなるよう配慮された。希は床用モップをヴァギナに入れて廊下の床を磨き、由紀は柄が字になったハンディモップを握りに入れ、股間からモップを突き出して柄が手すりを拭いて周りを磨き、瑞穂はほうきを壁面に刺して腰を振りながらテラスの落ち葉を掃き、綾もヴァギナにはたきを刺し入れ、お尻を振って柄や置物の埃を払った。そして真由美はカセットローターの柄を握りに入れ、娯楽室のカセットを掃除した。しかし制限時間内に終了しなかつたため、時間延長中は用具挿入箇所を握らねばならぬ。一方、綾は口グーターを入れて掃除を行った。

反省奉仕活動に全身洗浄 5人そろって汁まみれ!!

今回、初めての五人全員での奉仕活動が行われた。初日の奉仕内容は奉仕活動の清掃活動とされ、床用モップ、ハンディモップ、ほうき、たきカセット、ハンドヘルドブラシの共用品を掃除した。それらの掃除道具の柄は、両手を使えない反省者たちのために、ディンプル型とし、柄を握りやすくなるよう配慮された。希は床用モップをヴァギナに入れて廊下の床を磨き、由紀は柄が字になったハンディモップを握りに入れ、股間からモップを突き出して柄が手すりを拭いて周りを磨き、瑞穂はほうきを壁面に刺して腰を振りながらテラスの落ち葉を掃き、綾もヴァギナにはたきを刺し入れ、お尻を振って柄や置物の埃を払った。そして真由美はカセットローターの柄を握りに入れ、娯楽室のカセットを掃除した。しかし制限時間内に終了しなかつたため、時間延長中は用具挿入箇所を握らねばならぬ。一方、綾は口グーターを入れて掃除を行った。

が、既に反省室入りで決定している以上、以後のさらなる抵抗は即座に特別指導の対象とされることを知っているため、一切の抵抗はなかった。この追加処罰は放課後まで続き、午後の授業では女子生徒は自席で椅子を跨ぎ、手を組み裸で立ちながら授業を受けた。授業中も姿勢が崩れると即座に指導され、幾度も教鞭で股を叩かれていた。普通これほど厳しく指導が行われることは珍しく、それだけ学園側が今回の事件を重要視していることがうかがわれた。なお、席を立てていることから発表表中と同様、男子生徒による任意指導も全面的に許可され、授業中、男子生徒は女子生徒の性器や排泄器に反省を促すための教育的指導を施していった。



写真：特別反省室の反省者

五人一室での活動が行われた。しかし室内で友人とともに自由に話しかけるようでは反省の意味がなかつたため、反省室内では常にハイブレード付き反省板に脚部を固定することとされた。両手は背中の戒めとされたため、ほぼ全身拘束となり、十分な反省環境が整えられた。ハイブレードは少なくとも十分以上は以上の割合で動作するように設定され、常に反省の気持ちをなくさないよう考慮された。なお、現時点でトイレの配管工事が間に合わなかつたため、今限り反省室内のトイレは使用不可とされた。しかし、従来どおり反省室内ではトイレ以外での排泄を固く禁じていたが、排泄行為は全て学校で行うこととされた。その旨、反省者は厳重に注意を言われた。しかし、反省日目を迎えた現時点で、既に由紀、希、綾の三名の反省者が股間を洗い続け、失禁者が続出した。また真由美が名前の由来になつたナルキラスを全員の肛門に挿入する、真由美を筆頭に、皆、窮屈な身体を仰け反らせて、重なる泣き、潮を吹きながら悦びの声を上げた。そして約一時間後に身体中あらゆる汗を噴き出して、垂れ流させたところで全身洗浄を終えて、反省室へと入れられた。



写真：マングリ返し型全身洗浄機

就寝時は、互いの連帯感を高めて反省を促すために、床上50cm程度の高さに水平に張った伸縮性の高い糸に、全員のクリトリスを数珠繋ぎに結んだ。就寝とされた。一人が身を振ると全員が苦悶するたびに、皆静かに寝ていくが、隣接する男子寮側の部屋に人が立ち入り、その振動が糸が弾かれ揺られる構造になつてしまったため、幾度か糸に引かれて全員が恥口が突き上げ、空腹を振って悶え喘ぐ姿が見受けられた。しばらくすると、皆とさきお尻を擦り仰け反らせながら不安らかな暗がりになった。翌朝起床時に糸が上方に引き上げられると、皆腰を突き上げ、悲鳴を奏でて仰け反りながら目を覚ました。しかし全員があれほどのように股を濡らしていたことを悪態で朝一に告げられ、一人ずつ順番に足吊り状態のまま、朝の一掃りの刑を受けた。全員が朝日の中で潮を吹き上げることにまつた。

催眠誘導機と事件の関係、後催眠の効果

異例の「女子生徒」暴動事件、および、クラス女子生徒全員が「事件」の事態を受け、本紙が独自に調査した結果、暴動事件の前、男子生徒が女子生徒に対して催眠誘導機による催眠暗示をかけていたことがわかった。

催眠誘導機は近年女性能が向上しており、非常に手軽な機器となつてきている。そして最近、後催眠を用いた催眠誘導機が学内で流行している。これは催眠を解いた後、あるきかけによつて、あらかじめ決めておいた催眠暗示を誘発させるもので、かけ方次第で、自分の意志による行動と誤認させながら、任意の行動を引き起こせるのである。

今回の暴動も後催眠によるものである可能性が高かつたが、被催眠者のその自覚がないため、催眠は解いた後、また学園側も女子生徒への疑念には至らなかった。また学園側も女子生徒への疑念という観点から、仮に催眠誘導による行為であったとしても、本人の意識がある状態での行動と誤認したことを認め、この見解を示している。したがって今回の事件を催眠の無知にかかわらず暴動は出ていない、今回の事件をきっかけに、今後、他学年でも後催眠を用いた類似の女子生徒教育が増えることが予想される。次は学園生活にも慣れ始め、若干ながら自覚を覚え始めた二年生が疑を受けるのではないかと、未読特報も載せた。これから後催眠の活用も含め、今後特別反省室を有効に利用しつつ女子生徒への効果的な指導がなされる。いろいろ新しい施策が模索されることになり、女子生徒は。

なお本項目の文章は、女子生徒には認識できないよう、毎朝開示済である。